

国立大学法人兵庫教育大学

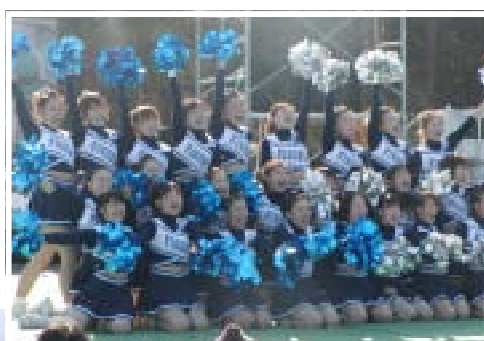
# 学 報



第269号

平成16年12月

題字 梶田叡一学長



第23回大学祭（嬉望祭）

## 目 次

学長退任にあたって.....2	・第23回大学祭（嬉望祭）
学長就任にあたって.....4	・嬉野台地区消防訓練
学 事 .....6	・平成16年度第4回附属図書館説明会
・奨学寄附金	・附属中学校研究発表会
人 事 .....6	・学生表彰
・人事異動	・同和・人権教育講演会及びシンポジウム
諸 報 .....7	・外国人留学生（後期入学者）歓迎パーティー
・役員会	・外国人留学生とフレンドシップファミリーの親睦旅行
・教育研究評議会	・外国人留学生の交通安全・防犯講習会
・教授会	・エネルギー利用技術作品コンテストの表彰
・大学院学校教育研究科委員会	・義援金募集活動
・大学院連合学校教育学研究科代議委員会	学内委員会等委員 .....11
・平成16年度兵庫教育大学永年勤続者表彰式	主要日誌 .....12
・海南師範学院創立55周年記念式典	
・学校教育研究センタープロジェクト研究発表会，特別講演会及びシンポジウム	

- 学長退任にあたって -



中 洌 正 堯

栗のいが

キャンパスで拾ひし小さき栗のいが  
わが指をさす忘るるなゆめ

学長室の片付けの最後は卓上の栗のいがになった。大学の駐車場で拾ったものである。ゴミ箱に入れようとしたら、指の腹をチクリと刺したので、そのままにした。兵庫教育大学のことを忘れるなという暗示と受けとめて、そのことを門口での別れの辞とした。

文科系には文科系の自然の親しみ方があると思ひ定めて、大学院の総合科目「自然と文化」なども担当し、学部生にも、大学の位置するこの地の利点を活用し、学びの対象とすることを訴えてきた。卓上の栗は、いわば“ユイゴン”のようなものである。(以下、「自然」のことだけではなく、遺す言葉のつづきです)

大学の特色の共通理解を

「中期目標・中期計画」を掲げ、法人としてスタートして8か月になる。

「中期目標・中期計画」における兵庫教育大学の特色は何かという問いには、次のような答えを用意していた。(番号は通します)

(まず、教育面のことです)

————— ( 学 士 課 程 ) —————

【目標】

1 実践的な指導能力とともに、得意分野を持った教員の養成

【計画】

2 本学の特色とする実地教育カリキュラムの充実・改善

3 特色ある教育課程とキャリア教育の充実による教員就職率の向上

————— ( 修 士 課 程 ) —————

【目標】

4 教員の高度専門職業人としての力量形成を図るための教育・研究機能の整備及び現職教員に対する再教育機能の強化

【計画】

5 社会的要請に応じた新しいコースの設置

6 サテライトの拡充による、現職教員に対する広範な修学機会の提供

7 eラーニングの活用による、現職教員に対する広域的な修学機会の提供

————— ( 博 士 課 程 ) —————

【目標】

8 教育実践学の高度な研究・指導能力を持った研究者及び教育専門職の育成

【計画】

9 教員養成大学・学部や都道府県等の教育界への人材供給の促進

10 研究指導体制及び教育課程の高度化による円滑な学位授与

(つぎに、研究面のことです)

【目標】

11 学校教育の実践を中心に据えた教育実践学に関する研究の推進

【計画】

12 大学院修了生等を結ぶ「教育実践ネットワーク」を活用しての実践的研究の推進と、研究成果の学校現場への還元

13 学内及び連合大学院構成大学等と共同しての研究拠点形成のためのプロジェクト研究の推進

【目標】

14 教育実践学の確立と高度な研究拠点の形成

【計画】

- 15 新しい研究課題に即応できる機動的な研究組織の構築
- 16 教員研修プログラムの開発など、教育政策形成への積極的支援とその成果の教育界への還元
- 17 研究活動の世界への発信と国際シンポジウム等の積極的開催

(そして、運営面のことです)

- 18【目標】専門職大学院の設置計画の検討
- 19【計画】大学の基本戦略に基づいた教育研究組織、学内資源配分、人事、施設設備等の整備
- 20【目標】教育研究組織の弾力的設計
- 21【計画】機動的な教育研究組織の設置を可能とするための、教員の一定数を大学全体で運用するシステムの整備
- 22【目標】教員の流動性と多様化の促進
- 23【計画】学校現場における教育経験を有する者の積極的採用
- 24【目標】大学の基本戦略に基づいた、教育研究拠点形成のための施設設備の整備
- 25【計画】教育研究の高度化及び学生生活環境の改善を図るための施設整備

(これらのうちすでに動き出しているものは、全学での退任あいさつにお配りした『文部科学教育通信』ジアース教育新社、No.106のとおりです。以下、とくに気にかかることの二つです。)

さらに力をこめて

一つは、大学院「小学校教員養成プログラム」のことである。これは全国的な脚光を浴び、成果が注目されている。これの着実な遂行のために、学長補佐等の支援体制を敷いているが、教育実習等を直接指導することのできる実務型の専任教員(特色の22・23)を置いて実践力を養成すべきである。この実務型の教員は、将来の教科教育スペシャリストやカリキュラム・コーディネーターの養成といった専門職大学院をにらんで採用するとよい。

二つには、「兵庫教育大学教育実践ネットワーク」(特色の12)のことである。これも兵庫教育大学ならではのことであり、ゼミ教員の単位、講座の単位、都道府県の同窓会の単位等、役割を分担して、積極的にかかわる必要がある。

名誉教授、退職・転任教員の力を借りることも考えられる。関連して、従来の「学校教育学会」に代わる教育・研究会を復活させたい。

また、現在概算要求中の「兵庫教育大学附属教育・社会調査研究センター」とも連携し、研究拠点の形成(特色の13・14)、国際学术交流(特色の17)へと展開することが期待される。

(そのほかの思いは、以下に箇条書きにします。その内容は、どこかで述べ、4年間のいつか聞いたことです。)

見果てぬ夢・新たな夢

- 26「先生になりたーい！」作文コンクール(島崎保先生案)
  - 27 連携実践研究(幼小、小中、中高、高大)
  - 28 小学校中学年の発達に関する総合的研究
  - 29 国際理解教育コース(観光科発想、ツーリズム、和文化・異文化教育、日本語教育、IT教育等の総合)の設置と海外出向教員制の実現
  - 30 教科教育スペシャリスト、カリキュラム・コーディネーターの養成(専門職大学院)
  - 31 附属学校・園教諭の修士課程修学の工夫
  - 32 「北播磨地域学」と千鳥川流域の環境創造
  - 33 大学教育実践の事例(実績)の記述
  - 34 教育実践学の構築
- (33は、来年3月までの自分の仕事です。学長在任中のご支援を心より感謝申し上げます。)

## - 学長就任にあたって -



梶 田 叡 一

## 【国立大学法人として】

従来の国立大学のあり方が抜本的に変革され、新たに国立大学法人としてスタートしたところです。気持ちの持ち方も仕事のやり方も、大きく変わらなければなりません。もはや文部科学省という中央官庁の出先機関の一つではないのです。独立した法人として、我々に与えられている条件・環境を自己責任において活用し、我々自身のヴィジョンと主体的努力を通じて、我々自身の目標の達成に取り組んでいかなければなりません。何かにつけ本省の意向を伺うという姿勢、様々な案件の解決は本省にという依存心は捨てなくてはならないでしょう。自立と自律の精神が根本になくてはならないのです。もちろん、だからといって本学だけで全てをやっていくということではなく、文部科学省とも、関係自治体を初めとする諸機関とも、緊密に連携し、協力し合っていかなければならないのは当然のことですが・・・。

いずれにせよ、法人化された本学の舵取りを委ねられたということで、学長としての強いリーダーシップを発揮しなくてはならないと、就任に当たって覚悟を固めています。

## 【アカデミックな水準の向上】

さて、我々の目標とすべきことは何でしょうか。大学ですから、まず第1はアカデミックな水準を上げていく、ということです。大学の教員の方々は、研究課題を明確化し、方法論を緻密にし、説得力ある論拠・論理を持った論文や著書を公表していただくなくてはなりません。年ごとに自分の研究業績が一つ一つ積み上げられていくのではなくては、研究者

として失格でしょう。

これと同時に、本学が大学院大学であることから、修士論文と博士論文の質が問われることを常に念頭に置かねばなりません。研究としての水準が高いものでなくてはなりませんし、<学校教育>という名称を冠しての修士号・博士号であることから言っても、具体的な教育課題に何らかの意味で応える内容のものでなくてはなりません。こうした点について、もう一度、根本的に考えてみなくてはならないと思います。

## 【優れた学校教員への養成と研修】

我々の目標の第2は、本学が教員の養成と研修を使命として創設された大学である、ということから導かれてきます。優れた教員をどう育てていくか、主として学部教育のカリキュラムの点からも、また潜在的（レイテント）カリキュラムとしての全学的な雰囲気（雰囲気）の点からも、再検討が必要でしょう。

さらには、現職の学校教員が大学院で研修するリカレント（回帰）教育の機関であるということから考えてみるならば、日本の教育の当面する諸課題をこの社のキャンパスで解いていく、という意気込みが必要となります。現在、中央教育審議会の各分科会・部会において、多岐にわたる教育問題が検討されています。できれば、こうした諸点についての解決策を本学で提案し、またそれをめぐって現職の学校教員の方々が研修を深める、ということでありたいものです。今まで以上に、教育現実への関心と情報収集能力、そして教育に関する専門的なノウハウが要求されるのではないのでしょうか。

**【社キャンパスを教育界の<メッカ>に】**

我々の目標の第3は、この社のキャンパスを、日本の教育界全体の研究・研修の拠点として育てていくことです。我々のキャンパスが日本の教育界にとっての<メッカ>になってほしいのです。新しい情報と刺激を求め、優れた先達や仲間との出会いを求め、全国から学校教師や教育行政関係者や教育研究者たちが参集してくる地にしたいものです。具体的には、学会や研究会、フォーラムやシンポジウム等の社キャンパスでの開催を頻繁にしたいと考えています。

これと同時に、人々の参集のインセンティブ（誘因）となるのは<人>であることを忘れてはなりません。本学の大学教員の中に、また附属幼・小・中学校の教員の中に、日本の教育界にとってスター的存在になる人が次々と育つことです。同僚のやることを何でもかんでも批判し足を引っ張るという雰囲気は本学に無縁のものと思いますが、これからは同僚の中から広く知られ強い影響力を持つ存在が出てくることを歓迎する雰囲気を、従来以上に育てていきたいと思います。横並び意識は、こうした点においても打破すべきものです。このためには、まず、大学でも附属校園でも、教員一人ひとりが、日本の教育界という広い世界において研究でも実践でも勝負していく、という気持ちを新たにすることが大切でしょう。この目標のためにも、学長として可能な支援策は何かを、真剣に考えていきたいと思います。

**【大事な諸目標の実現に共に頑張りたい】**

こうした主要な目標の他にも、国際交流をどう進めていくか、本学で教育を受けた卒業生の方々との連携協力をどう進めていくか、地域の地域や自治体との連携協力をどう進めていくか等々、大事な課題との取り組みを考えておかななくてはなりません。これら諸課題との取り組みもまた我々の大事な目標として、常に皆さんの念頭に置いていただきたいと考えています。

私の学長としての任期は、そう長いものではありません。

しかし時間的な長短は問題ではありません。学長職にある間、ここで述べた諸目標を現実化すべく、全精力を傾けて努力していきたいと考えています。これらの大切な目標の実現にむけて本学全体としての姿勢が確立し、皆で頑張っこれら目標を実現していこうという勢いがついてくれば、学長職を引き受けた私としては、幸せな気持ちで本学を去っていただけると思います。本学の構成員の皆さんと関係者の皆さんの御理解と御協力を、あらためてお願いする次第です。お互い肩を組み合わせ、共に頑張ろうではありませんか。

- 学 事 -

奨学寄附金

寄附申込者	研究担当者	寄附の目的	金額(千円)
ライオン株式会社	生活・健康系教育講座 教授 福田光完	福田光完教授の教授・学術研究に対する 助成	500

- 人 事 -

人事異動

(役員等)

年月日	発令事項	新職名等	氏名	旧職名等
16.11.30	16.11.30 任期満了退職		中 洌 正 堯	学長
16.11.30	16.11.30 任期満了退職		濱 名 外喜男	理事(副学長)
16.12.1	任 命	学長	梶 田 叡 一	任期 16.12.1~19.11.30
16.12.1	任 命	理事(副学長)	勝 野 眞 吾	任期 16.12.1~19.11.30
16.12.1	任 命	理事(事務局長)	三 浦 永 司	任期 16.12.1~19.11.30
16.12.1	任 命	理事(非常勤)	宮 崎 秀 紀	任期 16.12.1~19.11.30

(学部等)

年月日	発令事項	新職名等	氏名	旧職名等
16.12.1	所属換	学校教育学部教授 (自然系教育講座)	佐 藤 光	副学長
16.12.1	採 用	学校教育学部助手 (教育方法講座)	掛 川 淳 一	

- 諸 報 -

国立大学法人兵庫教育大学役員会

第16回 平成16年11月24日(水)

(議題)

- 1 幼稚園教員資格認定試験における試験問題作成大学について
- 2 役員の退職手当における業績勘案率について
- 3 その他

国立大学法人兵庫教育大学教育研究評議会

第9回 平成16年11月17日(水)

(議題)

- 1 国立大学法人兵庫教育大学における教員の学内異動に関する内規の一部改正について
- 2 兵庫教育大学日本学生支援機構学資金返還免除候補者選考委員会規程の制定について
- 3 保留定員の措置について
- 4 教員の選考開始について
- 5 平成17年度大学院学校教育研究科(修士課程)第2次学生募集について
- 6 外部資金から一定額を大学に拠出することについて
- 7 外国人留学生の教育課程(外国語科目)の在り方について
- 8 教員の選考について

兵庫教育大学教授会

第7回 平成16年11月17日(水)

(議題)

- 1 教員候補者についての意見の取りまとめについて
- 2 教員選考委員会の設置について
- 3 「大学洋上セミナーひょうご2004」参加者の単位認定及び本学参加者の学内の単位認定について
- 4 学籍異動について

兵庫教育大学大学院学校教育研究科委員会

第7回 平成16年11月17日(水)

(議題)

- 1 平成17年3月修了予定者の学位論文題目等について
- 2 担当の認定について
- 3 担当判定委員会の設置について
- 4 平成17年度授業科目の新設改廃等について
- 5 転クラスについて

第8回 平成16年11月29日(月)

(議題)

- 1 平成17年度大学院学校教育研究科入学者選抜試験等〔後期選抜〕の可否判定及び長期履修学生(夜間クラス)の許可について

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科代議委員会

第6回 平成16年11月2日(水)

(議題)

- 1 論文提出による博士の学位論文審査委員会の設置について
- 2 論文提出による博士の学位申請資格審査について
- 3 主指導教員の変更について
- 4 平成16年度授業料免除(後期分)について
- 5 論文提出による博士の学位授与申請における連合講座の関与について
- 6 学位論文審査手数料の改訂について
- 7 博士課程に係る国費外国人留学生国内採用(研究留学生)の推薦順位について



平成16年度兵庫教育大学永年勤続者表彰式の実施  
平成16年度兵庫教育大学永年勤続者表彰被表彰者が決定され、11月18日（木）に被表彰者に対し表彰状の授与及び記念品の贈呈が行われた。

なお、今年度の被表彰者は次のとおりである。

兵庫教育大学永年勤続者表彰被表彰者

学校教育学部	教授	吉田	寿夫
学校教育学部	教授	富永	良喜
学校教育学部	助教授	山口	眞琴
学校教育学部	教授	河村	昭一
学校教育学部	教授	森川	京子
学校教育学部	教授	米澤	有恒
総務部庶務課	職員係主任	西村	直美
総務部会計課	管財係主任	道上	隆生
総務部施設課	設備係主任	青山	照夫
教務部教務課	学校教育研究センター係主任	橋本	美紀
教務部教務課	附属学校係主任	白川	真由美
教務部教務課	附属学校係主任	河村	礼子
教務部教務課	附属学校係栄養士	安積	貴美
教務部教務課	附属学校係調理師	白井	千明
教務部図書課	目録情報係主任	森本	秩代



海南師範学院創立55周年記念式典に出席

11月7日（日）、8日（月）の両日、交流協定大学である海南師範学院において海南師範学院創立55周年記念式典が行われ、本学から中洩学長及び首藤助教授が出席した。

式典では、中洩学長が海外友好大学の代表として挨拶を行い、今後、両大学が築いた友好関係と相互交流の絆をいっそう深めること等について述べた。

また、11月9日（火）には華南師範大学、11月10日（水）には湖南理工学院へ表敬訪問を行った。

学校教育研究センタープロジェクト研究発表会、特別講演会及びシンポジウムの開催

11月6日（土）、学校教育研究センターにおいて、当センターのプロジェクト研究発表会、特別講演会及びシンポジウムが開催された。

まず最初に、プロジェクト研究発表会が行われ、学校問題解決研究部門古川部門主任から、「学校における児童生徒の学習効果を上げるための総合的研究」、情報メディア教育研究部門成田部門主任から、「問題解決に要求される『確かな学力』を育成するための情報通信技術の応用と教師の情報活用の力量形成に関する研究」、実地教育支援研究部門長澤部門主任から、「子どもの自然体験活動において学校教員に求められる指導資質能力に関する研究」の発表がそれぞれ行われた。

引き続き、本学外国人研究員ダリル・タキゾウ・ヤギ氏（米国カリフォルニア州スクールカウンセラー）による「今もとめられるコミュニケーションのあり方について - 信頼・共感・傾聴 - 」と題した特別講演が行われた。

また、「響き合う心を持ち、共に考えながら、たくましく生きる人間の育成 - 附属学校園間連携の推進 - 」をテーマに、佐藤副学長、渡邊学校教育研究センター長、古田附属小学校副校長、森本附属中学校副校長、高橋附属幼稚園副園長、保護者であり附属学校学校評議員の内橋恵子氏をパネリストに迎えてシンポジウムが行われた。これまで三校園が進めてきた教育推進上の連携の在り方について、今後の課題を探りながら活発に意見交換が行われ、今年策定された三校園統一の教育目標を実現していくためには、こういった取り組みが必要であるかを検討していく上で、有意義なものとなった。





### 第23回大学祭（嬉望祭）の開催

11月20日（土）、21日（日）の2日間、「必笑喜願」をテーマに掲げた第23回大学祭（嬉望祭）が盛大に開催された。

本大学祭は、学部2年次生を中心とする大学祭実行委員会と大学院院生連絡協議会前期役員とが協力し、「地域の子どもたちとのふれあい」を重視した教育大学ならではの大学祭を目指し、企画・準備を行ってきた。

大学祭当日は、天候にも恵まれ、学生・教職員をはじめとする学内関係者の他、地域の子どもからお年寄りまで多数の来場者があり、学内各所で行われた様々な催し物や模擬店では来場者の笑顔と笑い声が絶えることがなかった。

2日間という短い期間ではあったが兵庫教育大学が地域の交流の場となる有意義な大学祭となった。

### 嬉野台地区消防訓練の実施

11月26日（金）、加東消防署の協力を得て、自衛消防隊長（事務局長）をはじめ多数の隊員（職員）が参加して消防訓練が行われた。

訓練では、13時35分に教育・言語・社会棟3階西側付近から出火という想定のもとに、通報訓練、避難誘導訓練、梯子車による救助訓練、自衛消防隊の放水訓練及び消火器による消火訓練を実施した。

さらに、避難訓練の一環として、「煙道」を通る火災時の模擬体験も行われ、引き続き、防災講習として、起震車による震度7程度の地震体験、防火に関するビデオ講習、ダミー人形を使った人工呼吸法の体験講習を併せて行った。

訓練終了後、加東消防署から講評を受け、防火・防災に対する更なる心構えと意識の高揚が図られた。



### 平成16年度第4回附属図書館利用説明会の開催

11月8日（月）～15日（月）のうち5日間、第4回附属図書館利用説明会として「文献探索法概論」「本学にない図書の探し方（国会図書館、兵庫県立

図書館、Webcat）」「雑誌論文の探し方（NACSIS-IR[雑誌記事索引]）」「ERIC、PsycINFOの使い方」「電子ジャーナル、JDreamの使い方」と毎回異なった内容で開催し、好評のうちに終了した。

### 附属中学校研究発表会の開催

11月18日（木）、附属中学校において平成16年度附属中学校研究発表会が開催された。

研究会では、研究主題を『「確かな学力」が育つ学習指導の研究「わかる・できる・生かす」学びの創造（2年次）』として、公開授業・分科会・基調提案・講演が行なわれ、約200人の参会者から多くの意見を得た。

また、上越教育大学西川純教授による講演『学び合う教室 - 個人構成主義と社会構成主義の両立を目指した新しい学校像をもとめて - 』では、認知を主とした生徒の学習メカニズムを基に確かな学力を保障し、他方では学びの共同化をすすめ、意欲と生きる力を育むことの重要性が示された。参加者一同、日々の教育実践の大切さを実感しながら、盛会のうちに幕を閉じた。



### 学生表彰

兵庫教育大学学生表彰規程に基づき、次のとおり表彰を行った。

#### <受賞者>

個人 剣道部 大塚 翔（スポーツ奨励賞）

団体 女子バレーボール部（スポーツ奨励賞）

団体 よさこい部（文化芸術奨励賞）

授与式は、11月20日の大学祭当日、講堂において盛大に行われた。

#### <受賞者>

大学院学校教育研究科 教科・領域教育専攻

言語系コース 伊崎一夫

（受賞理由）

第35回博報賞「国語・日本語教育部門・文部

科学大臣奨励賞」受賞

授与式は、11月29日学長室において関係者列席のもと行われた。

#### 同和・人権教育講演会及びシンポジウムの開催

11月24日(水)、本学講堂において、同和・人権教育講演会及びシンポジウムが、学生・教職員約200人の参加のもと開催された。

講演会では、佐藤同和・人権教育委員会委員長による講演会の趣旨説明及び講師紹介の後、神戸女学院大学人間科学部教授森永康子氏による基調講演「人権教育とジェンダー」が行われ、ジェンダーについての社会における現状、これからの学校現場でのジェンダー教育への取り組みの大切さ等貴重な示唆、提言が述べられた。

引き続き、シンポジウムが黒岩助教授の司会により行われ、シンポジストの服部助教授、大学院学生、学部学生から自分の経験等を元にこれまで気づかなかった女性の社会や学校における差別についての実例や意見が述べられた。また質疑応答においても活発な意見の交換があり、参加した学生、教職員がジェンダーも含めた人権問題に対して再認識する機会となり、有意義な講演会となった。

#### 外国人留学生(後期入学者)歓迎パーティーの実施

11月10日(水)、国際交流会館多目的ホールにおいて、やしろ国際交流協会関係者をはじめ、本学に在学する外国人留学生や教職員を合わせて約60人の参加のもと外国人留学生後期入学者に対する歓迎パーティーが行われた。

本パーティーは、先導的留学生交流プログラムに基づいて今年度よりタイからの留学生の受入れを開始したことに伴い、毎年5月の歓迎パーティーに加えて初めて実施したものである。

濱名副学長の歓迎の挨拶の後、亀野やしろ国際交流協会会長の乾杯の発声に続いて和やかに歓談が行われた。歓迎パーティーの中で後期入学者の紹介が行われ、一人ずつ社町や本学に対するイメージや日本留学に対する意気込み等を述べた。タイからの留学生の2人は、各人の挨拶の後、楽器の演奏を行って参加者の注目を集めていた。また、やしろ国際交流協会より、後期入学者と家族ぐるみのお付き合い頂くフレンドシップファミリーとの対面も行われた。

本パーティーを通して、新入学者が社町や本学関係者との交流を図ることで、日本での生活や本学での勉

学をスムーズに始める上での貴重な時間となった。



#### 外国人留学生とフレンドシップファミリーの親睦旅行の実施

11月14日(日)、やしろ国際交流協会の事業として毎年行われている留学生とフレンドシップファミリーとの親睦旅行が実施され、本年は、外国人留学生15人が参加し、古都奈良へ観光バスで出かけた。

はじめに、東大寺では、古い木造建造物の建築様式、歴史的背景など、ボランティアガイドの詳しい案内に耳を傾けながら、南大門、大仏殿、二月堂などをフレンドシップファミリーとともに見学し、初めて見る紅葉に感動し、写真を撮りあう姿が見られた。

若草山の近くでは、初めて口にする日本料理について、フレンドシップファミリーから説明を受けるなど、和やかに昼食をとった後は、お土産物を熱心に選ぶ留学生の姿もあった。

また、奈良国立博物館では折しも「正倉院展」が開催されており、奈良時代の調度品、装束、楽器など貴重な品々を鑑賞することができた。

この親睦旅行により、フレンドシップファミリー、留学生相互の親睦が図られるとともに、古都奈良を通して日本の文化に触れ、理解することができ、有意義な一日となった。



## 外国人留学生の交通安全・防犯講習会の実施

11月24日(水), 国際交流会館多目的ホールにおいて, 社警察署から4人の講師を招いて外国人留学生の交通安全・防犯講習会を実施した。

本講習会は, 外国人留学生が出身国と日本との交通事情の差異や日本の犯罪の現状を認識し, 予防知識を身に付けることで, 安全に生活を行えるよう開催したもので, 本講習会では, パンフレット等の資料を用いながら, 講師から日本や社町における交通事情や犯罪の現状等についての説明が行われ, 留学生が交通事故や犯罪に巻き込まれないための知識や対策について教授があった。また, 留学生からの質問の時間において, 韓国からの留学生は国際免許で自動車を運転している経験から, 日本と韓国の右折信号の意味の違いについての質問が行われるなど, 活発な質疑・応答が行われ, 留学生の交通安全と防犯に対する意識の高まりが見られ, 貴重な時間となった。



## エネルギー利用技術作品コンテスト学会特別賞(学校賞)及び特別賞・奨励賞・入選

10月30日(日), 広島県立総合体育館において, 日本産業技術教育学会主催エネルギー利用技術作品コンテストの表彰式が行われ, 特別賞, 奨励賞, 入選並びに学校としても優秀であると認められ, 兵庫教育大学附属中学校に対しても学会特別賞(学校賞)が授与された。

なお, 入賞作品の一部は, 全日本中学校技術科・家庭科研究会主催の「第5回全国中学生創造ものづくり教育フェア」(平成17年1月東京)に展示される予定である。

本校に係る受賞者は, 次のとおりである。

学会特別賞 中西 由香(3年)蓄音機型ソーラーオルゴール

学会奨励賞 初田 有以(3年)電池式レコードプレイヤー

学会奨励賞 大西 晶子(1年)ピエロの呼び鈴

学会奨励賞 内藤 拓也(3年)風力発電機

入選 尾崎 年洋(3年)枕元用充電式万能時計  
中尾 力登(3年)

入選 酒折 大(2年)アイスクリーム作成機

入選 加藤 拓馬(3年)家庭用ソーラーそめん流し機

入選 寺本 蘭花(3年)くつ下用洗濯機

入選 本 匠(3年)来訪者用モニター

入選 友藤 祐馬(3年)太陽電池式冷風扇

入選 岩佐友梨香(3年)ソーラークッカー

入選 磯貝 佳史(3年)Eco-Fan

入選 岸本 綾香(3年)水蒸気ポートすいすい君

入選 川上 賢治(3年)無公害エンジンつきふきそうじき

学会特別賞 学校賞(兵庫教育大学附属中学校)

## 義援金募集活動の実施

11月11日~26日の2週間, 兵庫県下に甚大な被害をもたらした台風23号及び新潟県中越地方で発生した地震により被災された方々の苦勞が少しでも癒されるようにと, 院生協役員による義援金の募集活動を学内において実施された。

この活動は, 大学院院生連絡協議会で検討し, 実施されたもので, 学生, 教職員等の学内関係者の他, 20日, 21日の大学祭に来学された地域の方々から支援があり, 11月29日に送金された。

義援金の送金については, 次のとおりである。

兵庫県台風災害義援金募集委員会

金額 45,329円

新潟県災害対策本部

金額 45,329円

## - 学内委員会等委員 -

## 研究推進委員会

区分	委員氏名	職名(所属)	任期
旧	今塩屋隼男	教授 (障害児教育講座)	16. 4. 1~ 18. 3.31
新	宇野 宏幸	助教授 (障害児教育講座)	16. 9.14~ 18. 3.31

[庶務課]

## - 11月主要日誌 -

月 日	事 項
11月2日(火)	連合学校教育学研究科代議委員会(第6回) 連合学校教育学研究科入試委員会(第1回) 公開講座「絵画教室」
3日(水)	公開講座「絵画教室」
4日(木)	連合学校教育学研究科構成国立大学 法人間連絡調整委員会 大学情報室準備WG(第1回) 公開講座「絵画教室」
5日(金)	学生委員会(第5回) 公開講座「絵画教室」
6日(土)	学校教育研究センタープロジェクト 研究発表会, 特別講演会及びシンポジウム 公開講座「ピアノを弾こう!」 公開講座「伝説と史実と」 公開講座「生涯を通して楽しむ英語と英米文化」 公開講座「発達が気になる子どもの家庭療育の方法」
7日(日)	連合学校教育学研究科教育実践学フォーラム2004(第2回)
8日(月)	安全衛生委員会(第8回) 附属図書館利用説明会 連合大学院出願資格認定審査申請受付(~10日)
9日(火)	教務委員会(第7回) 附属図書館利用説明会
10日(水)	経営企画委員会(第5回) FD推進委員会(第5回) 附属図書館利用説明会 臨時講師採用登録説明会 教職講座 就職セミナー 留学生歓迎パーティー
11日(木)	就職相談室運営会議(第3回) 附属図書館利用説明会
13日(土)	大学院入学者選抜試験[後期選抜試験]
14日(日)	学生寄宿舍一斉清掃
15日(月)	労務委員会(第2回) 附属図書館利用説明会
16日(火)	附属学校運営委員会(第6回) 評価委員会作業部会(第6回) キャンパス安全・環境委員会(第3回)
17日(水)	教育研究評議会(第9回) 教授会(第7回) 研究科委員会(第7回) 連合学校教育学研究科連絡会(第1回) 人事委員会(第5回) 教職講座
18日(木)	永年勤続者表彰式

20日(土)	高大連携プロジェクト会議 附属中学校研究発表会 名誉教授の会 嬉望祭(~21日) 公開講座「ピアノを弾こう!」 公開講座「生涯を通して楽しむ英語と英米文化」 公開講座「発達が気になる子どもの家庭療育の方法」
24日(水)	役員会(第16回) 基本戦略委員会(第7回) 教員採用試験合格者説明会 同和・人権教育講演会 教職講座 就職セミナー 外国人留学生への交通安全・防犯講習会
26日(金)	嬉野台地区消防訓練 大学院入学試験委員会(第6回) 大学情報室準備WG(第2回)
27日(土)	公開講座「ピアノを弾こう!」 公開講座「発達が気になる子どもの家庭療育の方法」
29日(月)	研究科委員会(第8回) 教務委員会(第8回)

編集発行 兵庫教育大学総務部庶務課

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1

電話 代表(0795)44-1101

http://www.hyogo-u.ac.jp/